

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1172502211		
法人名	社会福祉法人 桑の実会		
事業所名	康寿園グループホーム輝		
所在地	所沢市東狭山ヶ丘6-2796-1		
自己評価作成日	平成24年1月26日	評価結果市町村受理日	平成25年9月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/Top.do">http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	平成24年2月3日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは「桑の実会」が運営母体となってグループホームである。『その人らしく輝いてほしい』という理念のもと、職員は利用者の伴走者となるように生き生きと笑顔で介護に励んでいる。ホームは住宅地の中にあり小中学校に隣接している。習字や絵手紙、歌、オカリナなど多数のボランティアや、小、中学生の来訪があり、入居者の楽しみにつながっている。地域運営会議には、小学校長、行政、自治会長、民生委員、包括センター、家族など地域の方が出席し、活発な審議が行われている。また、災害、防災への地域住民による「輝支援隊」が結成されるなど、協力体制ができており、地域の密着したグループホームである。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・自治連合会による輝支援隊との協力体制、小・中学校との交流、夏祭り等イベント時の家族の協力、各種ボランティアとの交流等、利用者が日々安心して生活を楽しめるよう基盤づくりに取り組まれている。  
 ・ピアノの弾き語りを楽しめる方、ソファで演奏や唄に聴きいる方、職員やお仲間との会話に興じる方、居室で一人の時間を楽しむ方等、利用者一人ひとりの思いや暮らし方を尊重したケアを実践されている。  
 ・平成22年度の目標達成計画、地震・風水害など災害種別マニュアルを整備されるほか、東日本大震災の教訓を活かし、地震・停電対策や備蓄リストの整備など、体制整備に取り組まれている。又、事業所理念の共有と実践についても、幹部会議や個別面談の実施など、話し合いの機会を多く設け取り組んだことにより、目標計画を達成されている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自分らしく輝いている理念に基づき管理者と職員間の壁のない情報共有で皆が同じ方向を見て、一丸となって業務を遂行している。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念がつけられ、管理者と職員はそれらを共有し、利用者が地域の中でその人らしく、生き活きと輝きのある日々を過ごしていただくことに、気配りされた利用者本位のサービスが実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流は積極的に行われている。地域の行事に参加するほか、ホームの行事(花見、クリスマス会)などへの招待には多くの住民の参加がある。また、ホームの地域交流室を地域に開放する事で情報交換がなされ、ホーム開設前から小学生の登下校の見守りを行うなど、地域の人々との交流に努めている。	自治連合会による「輝支援隊」との相互協力体制、隣接小・中学校の登校時の見守りや体験学習の受入れ、駅伝大会の応援、又、絵手紙や茶道など多くのボランティアとの交流等、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう基盤づくりに取り組まれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学や、地域交流室をオープンするなど、施設や入居者の理解に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年数回開催されており、メンバーは学校、地域、民生委員、行政、法人代表から構成されている。会議では、事務報告や行事予定の説明の他、参加者との情報交換が活発に行われ、災害時の協力体制についても話し合われている。全体会議を開き、評価の意義を話し合い、改善点をユニットごとに取り組むようにしている。	定期的開催され、事業所からの報告のほか、参加者からも意見・提案が行なわれ、事業所運営に活かされている。認知症講演会などの地域情報や災害対策、外部評価結果と課題解決への取り組みなどについての話し合いが持たれ、サービス向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ぐるみの防災訓練など、市に来て頂くよう働きかけている。市の高齢者支援課の担当者と密に連絡を取っている。研修会、親睦会を通して良好な協力関係が築かれている。	入居に関する情報等の報告、相談の機会のほか、市主催の地域密着型サービス事業所管理者会議で市担当者とのコミュニケーションを図られている。又、運営推進会議でもアドバイスを頂くなど、良好な協力関係を築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は正しく理解しており、身体拘束をしないケアを原則としているが、緊急やむ負えない場合、家族の了解をとっている。(ペット柵など)	社内研修が行われ、管理者及び全ての職員が身体拘束の内容とその弊害を認識し、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに向けた取り組みが行なわれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	何が虐待にあたるのかを常に指導し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は学習してきたが、職員が学ぶところまで到達していない。必要な人には支援をする用意はある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書はすべて音読し、一つ一つの項目に説明を行い、理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時は、できる限り声を掛け思いを聴くようにしている。又、家族の代表の方との意見交換も行っている。利用者の意見、不満、苦情は職員がユニット長、管理者に届け、ケアプランや運営に反映させている。新たに苦情受付表及びファイルを作り、苦情にとどまらず意見等も記録する事にした。内容は、第三者委員会にて報告している。	利用者については、日頃の関わりの中で、家族とは運営推進会議や面会時のほか、家族会でも意見・要望の聴き取りを行なっている。又、「クレームはレベルアップのチャンス」として前向きに受けとめられ、職員間での話し合いを持ち、運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時意見を聞き入れ、迅速に対応している。年1回個人面接をし、職員の意見を聞くと共にユニット会議からも意見を聞き、反映させている。	定例会議や個別面談時などで意見・提案を聴きとられている。言いやすい環境がつけられ、活発に意見・提案が行なわれ、個別ケアなどサービス向上に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常勤、準常勤は功労を認め、役職、給与に反映している。非常勤の場合は定期昇給に反映している。改善に至っては職員全員を集め、納得できる説明を行っているため、やりがいを感じており、働きやすい職場環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は内部、外部の研修を受ける機会がある。スキルアップ、指導員研修へと進めている。また、研修受講者は研修報告書を提出しており、報告書回覧して職員間で共有している。資格取得の援助も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の理事をするようになって、ネットワークが出来ている。年間を通じ数十名の実習生を受け入れており、交流は活発で、しかもサービスの質の向上につながっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	訴えや思いを聞き入れ、本人が安心するような対応をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていることなど、来園時の会話を重視し、ホームとしての対応など事前に話し合いをしている。 家族の要望も取り入れ、ケアプランを確認して頂き、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	年2回のケアプラン会議で本人のニーズを見極めている。 本人の状況を見て、入居のあり方を家族、本人、担当ケアマネとよく話し合い、より本人にとって良い方向を工夫している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分で出来る日常的な事は出来るだけやって頂き、それに喜びを感じてもらえるように感謝、労いの意を添えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会等の協力を得て、本人が家族との絆を大切に出来るよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の面会、家族との外出が頻回にあり、喜びに繋がっている。	昔馴染みの友人・知人との面会、手紙のやり取りや電話の取り次ぎ、馴染みの店でケーキやコーヒーを楽しまれるほか、家族の協力を得て美容室へ出かけるなど、馴染みの関係が途切れないよう支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が互いの居室を訪問したり、車イスを押したり、入居者同士が支え合っている。 また、一人である入居者には声掛けし、会話に参加できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移った場合等、時々面会に行くようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会議で話し合ったり、家族と相談しながら、本人の意見を重視し、個別の要求に対応している。	現在、意思疎通の難しい利用者はいないものの、利用者一人ひとりと接する機会・時間を多く持つよう努め、利用者個々の思いや意向を大切にしたい取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントからの情報のみでなく、日常会話や家族からの新たな情報を会話等で共有するようにしている。 家族に生活史を作成してもらっている。個人ファイルを作り、現場に常備している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃から表情や口調を細かく観察しながら日々の活動を促したり、休息を入れたりしている。 介護記録を中心に経過観察ノートを活用し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランには、家族の方が書かれた生活史や本人の聞き取り調査を重視し、作成している。 家族会や訪問時に聞くようにしている。必要に応じてカンファレンスを行っている。	利用者や家族には日頃の関わりの中で思いや意向を聴きとり、医師・看護師の意見も取り入れ、関係する職員全員で意見交換を行ない、現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を時系列の他に特記を分けて記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や買い物の要望に応じている。 入居者の手術等では、長期入院が困難な場合は、臨機応変に受入体制を作っている。 入居者の状況に応じて、柔軟な対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの小学校の行事に参加したり、地域のボランティアには常時来てもらっている。年2回の避難訓練には、消防署、民生委員、地域住民に協力してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を大事にしながら、医療支援を行っている。例えば、眼科の送迎や必要時の受診付き添いを行っている。内科、歯科の往診を受け、異変があれば速やかに家族に連絡している。	入居時に利用者や家族の希望を尊重し、医療機関の選択をしていただいている。専門医等かかりつけ医の受診支援も適宜行われ、医師や家族への必要な利用者情報の提供も行なわれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異変、急変の場合は速やかに主治医に連絡し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	重度化や終末期に向けては、家族面談を行い、話し合っている。入院時には2～3日に1回は入居者を連れて顔を見に行くようにしたり、必要時は毎日、昼食介助に行くこともある。病院関係者とは細目に連絡を取り、早期退院を実現している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアは、今の段階では難しい。出来る事、出来ない事の線引きがまだ曖昧である。ほとんど家族、本人ともにグループホームでの暮らしを望むため、家族と話し合いながら、よい方向を見つけていきたい。現在はぎりぎりまでホームで生活出来るよう支援している。	入居時に重度化・終末期についての話し合いが持たれ、利用者・家族と意志統一を図られている。その後の対応も早い段階から話し合いを行ない、意志確認を進めながら、希望に沿った最大限のケアに向けた取り組みが行なわれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の防災訓練時に、全員救命講習を受け、AEDの講習も行った。緊急時のマニュアル作成。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域支援隊を中心に、災害時の助け合いのあり方を協議している。	消防署や自治連合会の支援隊の協力を得て、避難・通報・初期消火など総合訓練(夜間発生を想定)を実施されている。又、災害種別マニュアルの整備のほか、東日本大震災の教訓を活かし、地震・停電対策や備蓄リストの整備など、体制整備に向けて取り組まれている。	消防法に基づく、火災発生時の職員の役割分担は整備されているが、事業所特性を踏まえ、利用者の定時薬やケース記録など非常持出品についての役割分担などを明確にすることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	性格、人格を尊重し、9人それぞれオリジナルなケアを行っている。居室に入る時はノックするなど、プライバシーに気を付けている。また、目上の方に対する言葉づかいを意識し、出来る限り否定しない会話を重視している。	利用者の人格を尊重した対応と個人情報の責任ある取り扱い、排泄や入浴時の羞恥心に対する配慮などきめ細かな対応がとられている。一律のサービス提供ではなく、「特別待遇」と称して、利用者の希望を尊重したサービスを提供されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションの希望や参加の可否、食べ物に関する要望など、本人の希望を汲み取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩、活動などはその人のペースに合わせた事を行えているが、入浴時間は、浴室の作りや安全面を考えて午後になっているなど、どうしても職員側の都合になってしまう事がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容は現在、美容師の資格を持つ職員による美容に満足している。声掛けてお化粧品も楽しんで頂いている。起床時は寝起きのままにならないよう、顔、頭、口、服はいつも清潔にし、身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いなどを考慮している。準備、片付けも協力しながら行っている。個別に嗜好品を提供したり、食事の形状を工夫したり、一人一人に合わせている。	利用者個々の力に合わせ、食事の準備・後片付けなど職員と共に行っている。毎日の食事メニューも利用者の希望を取り入れ、たこ焼きやほうとうどんづくりを楽しまれたり、定期的な外食や板前さんが来所されての握り寿司なども計画されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の基本的な食事量、水分量を把握している。体調変化が見られる時はチェック体制を敷き、数字を記録しながら体調回復に努めている。特に水分拒否気味の入居者については、時系列で水分摂取量を記録して、1日1000ccを達成できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	常時声掛けすると共に、確認している。本人が出来ない場合は介助に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	会議などで話し合い、誘導回数を増やしたり、しばらく様子を見てから再検討するなど、工夫している。早めに誘導するなど、出来るだけ自立での排泄を目指す。	一人ひとりの力や排泄パターン・習慣を把握して、適宜、声かけを行い、トイレでの排泄や自立にむけた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のチェック表を基に、便秘にならない様に対応している。家族と医師の許可を得て、下剤の調整を行っている。食事メニューは繊維質の物を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否の場合でも、再度声掛けを行ったり、しばらく様子を見てから再検討する等、個人のタイミングに合わせる工夫をしている。	入浴日と時間は設定されているが、できる範囲で利用者の希望に沿い、好きな時間に入浴できるように支援されている。大浴場を利用し、皆で歌を唄ったり、お喋りを楽しんだり、しょうぶ湯やゆず湯などの季節湯や入浴剤も楽しまれている。又、利用者個々の力に合わせ、職員2人での介助や手すり・すべり止めマットの追加など、安全対策もとられている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は午睡を促している。フロアまたは居室でテレビを観るなど自由に過ごして入眠している。昼夜逆転の場合でも、夜間できるだけ入眠を促す工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ミスの危険性を充分認識している。2重3重の対策により、重大なミスはなくなった。変化がある場合は、主治医に連絡し、指示を仰ぐ。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前行ったことや挑戦したことを聞き出し、生活が単調にならないよう工夫している。先生だった人がピアノを弾いたり、料理好きな人には積極的に料理に参加して頂く。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩が大好きなので、天気が良ければ出掛ける。家族参加して、バスハイクにも出掛けた。	日課の散歩やテラスでの外気浴、食材購入日には職員と一緒に買い出しに出かけるほか、利用者の希望に沿い季節ごとの桜やバラなどのお花見会、いちごやぶどう狩りなども支援されている。又、恒例のバスハイクには、家族の参加を得て楽しまれている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルを避けるため個人のお金は事務所で管理し、必要に応じて使用して頂く。一緒に買い物に行くこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望がある時は自由に電話をかけ、話をさせて頂く。手紙のやりとりも支援していく。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に花や植物、又は季節の行事(七夕、ひな祭り、お月見、クリスマス、お正月等)を飾り、地域の人が親しみを持ってもらえるようにしている。居室や食堂には写真や花を飾る等、明るい空間作りを目指し、入居者と一緒に出来る様にしている。1日最低一回の窓開放、居室換気扇の24時間運転により、十分な換気が行われている。エアコンの調節は日中は日勤、夜間は夜勤者が責任を持って行っている。エアコンのフィルターもこまめに掃除している。畑作りや玄関の植木を楽しむようにしている。	利用者にとって不快や混乱を起こさぬよう、室温・音・採光などきめ細かな配慮がとられている。共用スペースには季節行事の飾付けや外出時の写真等が飾られ、明るく清潔感のある共用空間づくりがなされている。又、広々としたリビングルームにはピアノやソファが置かれ、ピアノを楽しんだり、おしゃべりや休息ができるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い入居者同士居室訪問をするのを見守っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	TV、ダンス、イス、ぬいぐるみ等使い慣れた物に囲まれて居心地良く生活出来るよう工夫している。	使い慣れた馴染みのタンスや机、テレビなどが持ち込まれたり、お気に入りの書や絵も飾られているほか、家族の写真や仏壇なども持ち込まれ、落ち着いて生活ができるよう工夫されている。又、毎朝掃除の時間が設けられ、共用スペースを含め清潔維持に努められている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差をなくし、スロープを作っている。又、必要な所に手すりを設置している。トイレのマーク、夜間の照明の工夫、家具の配置など安全と自立を支援している。独歩で自立した方は階段を使用している。トイレの場所もわかりやすいようにしてある。		

(別紙4(2))

事業所名 康寿園グループホーム輝

## 目標達成計画

作成日: 平成 24年 6月 1日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害対策を明確にする。	災害時、利用者の定時薬やケース記録など非常持出品についての役割分担を明確にする。	1)非常持出品のリスト作成(別紙) 2)職員の役割分担を決める。 日勤…入居者見守り。定時薬、血圧計、体温計、オキシメーターの持出 早番…非常持出品の確保 遅番…保険証のファイル、お薬手帳、ケース記録	1ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。